



「2014年も昨年に続き激動の年にしたいですね」と話すファンキー加藤

# 言葉を歌う人でありたい

昨年6月の東京ドーム公演を最後に惜しまれながら解散した男性3人組「FUNKY MONKEY BABYS」。リーダーだったファンキー加藤が再始動し、ソロデビュー曲「My VOICE」を発表する。

## 継承と新スタイル

「元気に過してしまいませんか。僕の方は今も相変わらず東京の街の片隅で君のことを思っています」。大切な人への手紙のような歌詞が印象的なこの曲。真つすぐな思いを加藤は自然体で歌っている。

だが、曲ができるまではずいぶん苦心したという。「ファンモンの継承と、ファンキー加藤としての新しいスタイルをどうするか。いろいろ考えすぎちゃったんです」

作ってはポツの繰り返し。約3カ月、もがき苦しみながら30、40曲と書くうち「もつとシンプルに」と

## ファンへの手紙を歌詞に

### ファンキー加藤 ソロ曲「My VOICE」

考えるに至った。ヒントになったのはファンモンの最後のシングル「ありがと」だった。

「あの曲はファンの人だけに向けた曲だったんです。ソロの始まりもそういう形でいいんじゃないかと思つて……。本当に『拝啓』から手紙を書き出して、それがそのまま歌詞になりました」

曲作りに取りかかったのはなんと東京ドーム公演の約1週間後。「海外を放浪してもよかったんですけど」と笑いつつ、「大きな家を失ったような喪失感と、この先どうなるのかという不安感の解消には曲を作るしかなかった」と振り返る。

#### 短距離走のよう

2004年結成のファンモンは06年デビュー。「ちっぽけな勇気」「告白」「ヒーロー」などのヒット曲を出し、08年からNHK紅白

歌合戦に連続出場した。人気絶頂期の解散は衝撃を与えた。「メンバーの）ケミカルが30歳くらいになれば、住職の修行が必要というのには結成当初から分かっていたこと。終わりがあからうに突っ走ることができたんです」

解散後もファンモンの楽曲は多くの場所で耳にする。昨年11月の日本シリーズのファンが一緒に口ずさんだ。「曲が歌い継がれていくのは本当に幸せ。ソロでもファンモンの曲は歌ってみたい」と笑顔を見せる。「音楽は心にプラスの力を与えるとは僕はずっと信じていて、そのスタンスはこれからも変わりません」と話す。「希望を抱く大切さ、夢を見るすばらしさ、そして誰が何を言おうが、未来は

ズ第7戦。楽天の田中将大投手が9回の救援登板でマウンドに向かう際、球場に「あとひとつ」が流れ、多

明るいんだということを書いていきたい。言葉を、メッセージを歌う人でありたいんです」

## 斬新なダンスパフォーマンス

斬新なダンスパフォーマンスで、海外で高い評価を受けているダンスカンパニー「DAZZLE(ダズル)」の最新作「二重ノ裁ク者」を、東京芸術劇場プレイハウスで14～16日に計5公演で披露する。スタイリッシュな舞台を目にできる貴重な機会だ。

DAZZLEは1996年、大学のダンスサークルから生まれた。「ダンスの魅力にとりつかれた」という長谷川達也が主宰する。現在は初期メンバー4人を含む男性11人で構成。平均年齢は32歳。軽やかに宙を舞ったり、力強く足を蹴り出したり、としなやかな肉体の美しさを見せる。

### DAZZLEが東京で公演 14～16日



「Theatri KAI(シアトリ)を持つ物語を表現する。演劇的な面でも注目され、世界三大演劇祭の一つであるルーマニアのシビウ国際演劇祭(2011年)に出演し、熱狂的に迎えられた」という。同年に神奈川芸術劇場で行われた「KAI AT STREET DANCE FESTIVAL」では、15分間の舞台作品を競う「Theatri KAI(シアトリ)カル」部門で優勝した。新作「二重ノ」は、人口増加を抑えるため、50歳以上の国民の追放と他民族の排除を掲げる独裁者が支配する国を舞台に、人としての独裁者の葛藤を描き出す。ルーマニアなどかつて独裁者がいた国を訪れた際に、その存在を実感したことにヒントを得て、長谷川が構想を練った。「張り巡らせた伏線を経て、見る人によって解釈が異なるような物語の作りをした」と長谷川。

ストリートダンスから出発し、ヒップホップやコンテンポラリーなどさまざまなジャンルを取り入れる。独創的な音楽や照明、衣装を駆使し、神秘的な世界観

を保持しながら、演劇的な面でも注目され、世界三大演劇祭の一つであるルーマニアのシビウ国際演劇祭(2011年)に出演し、熱狂的に迎えられたと

いう。同年に神奈川芸術劇場で行われた「KAI AT STREET DANCE FESTIVAL」では、15分間の舞台作品を競う「Theatri KAI(シアトリ)

円、CD付のプレミアム席7千円。問い合わせはチケットスペース03(3234)9999。(下野 綾)



超実力派シンガー、アリアナ・グランデ

## アリアナ・グランデ

### 「ユアーズ・トゥルーリー」

彼女の歌が注目されるようになったのは、動画投稿サイトでマリア・キヤリーの「恋人たちのクリスマス」などをカバーしたことがきっかけだった。「ネクスト・マリアと呼ばれることもあるけれど、とつても光栄なことだと思ってる。彼女と比較されるなんて最高の褒め言葉だと思ってる」

フロリダ州生まれのイタリア系米国人。両親が音楽好きで、兄も音楽学校に通う音楽一家で、ソウルフルでパワフルな歌を聴いて育った。シングル曲「ベイビー・アイ」は1990年代のソウル音楽の香りがする。誰かときどき、始めのうちは、若くして、友を去る

最後のステージで歌う「FUNKY MONKEY BABYS」のメンバー3人。2013年6月、東京ドーム

動画サイトからブレイクする歌手が増えている。それで注目されたアリアナ・グランデの「ユアーズ・トゥルーリー」(ユニバーサル)は初登場全米1位となり、若い世代に支持を

25日(当日消印有効)。入選作は7月上旬に発表。9月に開催予定の「第36回PFF」で上映され、グランプリなど各賞を競う。応募方法など詳細は公式サイトで。過去の入選者には黒沢清監督や園子温監督、石井裕也監督らがいる。